

# 義務教育課だより 1月号



## 県内のへき地学校等及び複式学級の状況について

本県のへき地学校等数は、【表1】のとおり、令和7年5月1日現在、休校を含めて、小学校37校、中学校14校、合計51校です。これは、公立小・中学校全体の約13%になります。ここ数年は、少子化、過疎化の影響を受けた学校の統合や閉校により、へき地学校等数は、やや減少傾向にあります。

県内の複式学級を有する小学校数は、【表2】のとおり、令和7年5月1日現在、78校です。そのうち、54校（約69%）がへき地学校等ではありません。（中学校については、本県は平成17年度より複式学級を解消しています。）小学校の3～4校に1校が複式学級設置校という現状です。また、複式学級数は、【表3】のとおり156学級あり、その中には、1・3年、2・4年、4・6年の飛び複式学級も含まれています。「令和7年度学校基本調査」から児童生徒数の推移を見ると、5年前と比べて、小学校では児童数が約7,900人、中学校では生徒数が約1,000人、合わせて約8,900人減少しています。今後も、人口減少が続くことが予測されます。



- ★ へき地学校等だけではなく、多くの地域の学校が「小規模性」や「複式形態」という問題に直面。
- ★ 本県の教員は、誰もが少人数学級や複式学級の担当となる可能性があり、その指導力を身に付けることが必要。

R7.5.1現在

		小学校			中学校			合計		
R7		37校(14%)			14校(11%)			51校(13%)		
	東予	中予	南予	東予	中予	南予	東予	中予	南予	
	7	11	19	6	2	6	13	13	25	

【表1】愛媛県のへき地学校等数

(R7.5.1現在)

	学校数	割合
東予	11校／90校	12.2%
中予	24校／85校	28.2%
南予	43校／87校	49.4%
県	78校／262校	29.8%

【表2】愛媛県の複式学級数

1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年
34学級	14学級	47学級	13学級	43学級
1・3年	2・4年	4・6年	合計	
1学級	1学級	3学級	156学級	

【表3】複式学級の学年構成

## 愛媛県へき地・地域教育研究大会について

令和7年10月31日に、大会主題「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着を持った人間性豊かな子どもの育成～地域教育の推進と学習指導の深化・充実を目指して～」の下、令和7年度愛媛県へき地・地域教育研究大会が開催されました。会場校である久万高原町立美川小・中学校においては、「自ら考え、ともに生き生きと伝え合う子どもの育成」という共通の研究主題を軸として、児童生徒を中心に据えた、温かな教育活動が推進されており、多くの実践事例と成果を発信していただきました。

「地域人材の豊かさ」は、両校の大きな魅力の一つです。学校、家庭、地域が連携し、信頼関係を積み重ねてきた歴史があることで、教育を通して子供たちに育みたい資質・能力を共有しながら、ふるさと教育の推進が図られています。地域の様々な人とつながりながら、児童生徒自身が自分を取り巻く人、もの、ことについて興味・関心を抱き、自分にとって意味のある課題解決に向かう体験はとても大切です。子供たちが、見て、聞いて、触って、においを感じて、目を輝かせながら活動する五感を通した学びは、机上だけの学習活動では体験できません。美川

小・中学校で取り組まれた多くの実践から得られた成果は、へき地の学校をはじめ、全ての小・中学校における充実した教育活動のための大きなヒントになったことと思います。御尽力いただいた皆様、ありがとうございました。

本研究大会は、隔年で実施されています。ぜひ、積極的に参加し、本県の豊かなへき地教育から共に学び、思いを共有しながら日々の教育実践に生かしていただきたいと思っています。

【令和9年度愛媛県へき地・地域教育研究大会（開催予定）】

研究校：大洲市立肱川小学校・肱川中学校

日時：未定



## 複式学級学習指導資料について

愛媛県教育委員会では、毎年、県内の経験豊富な複式学級担当者の先生方に資料作成の協力をいただきながら、各教科の授業の実践事例や指導計画案、効果的なICT活用の事例等、様々な内容のデータを蓄積しています。日頃の教育活動の中で、「こんな時、どうすればよいのだろう。」と思った時の手引きとなるとともに、校内研修等における研修資料としても活用できます。また、この資料は、複式学級だけでなく、単式の学級においても参考にさせていただきたい工夫がたくさんあります。ぜひ、愛媛県教育委員会義務教育課のホームページから御覧いただき、校内研修や自己研修に御活用ください。

【資料を活用している先生の感想(令和6年度複式学級学習指導資料活用状況調査より)】

- 初めて複式学級の担任になりましたが、もっと早くこの資料を知りたかったです。学級での指導時だけでなく、研修主任として、校内研修においても、この資料を最大限に活用しながら積極的に情報共有等を行いたいです。
- 初めて複式学級の担任となり、右も左も分からない状態でしたが、資料を見て少し不安がなくなりました。具体的な事例があり、分かりやすかったです。
- ICTの効果的な活用の仕方が参考になりました。
- 年間指導計画を作成する場合、他校がどのようにされているのか参考にになりました。
- いつでも自分のペースで資料を参考にすることができて、大変ありがたいです。

間接指導時に児童が自ら学習を進める授業の工夫

複式学級における  
社会科の指導の工夫



国語科

間接指導や  
少人数の学習指導の工夫



【実践例】  
第3学年 「修飾語を使って書こう」  
第4学年 「ごんまつね」  
全校モジュール学習 「音読の時間」

コンセプトは……

忙しい毎日でも  
短時間で  
分かりやすく！



【「令和6年度複式学級学習指導資料」より（義務教育課ホームページ）】

【URL】 <https://ehime-kyoiku.esnet.ed.jp/gimu/fukushiki>

※ スライド形式で工夫された資料となっています！



「児童生徒一人一人を伸ばす教育」「豊かな自然を活用した体験学習」「家庭・地域社会との密接な連携による教育活動」を大切にしてきたへき地教育は、「教育の原点」とも言えます。少人数学級や複式学級での取組には、全ての先生方の日々の教育実践を充実させるヒントがたくさん含まれています。今後も、各学校において、個に応じた丁寧な指導と地域を生かした学びの充実に向けた教育活動の推進をお願いいたします。